

平成27年度第5回青森市健康福祉審議会児童福祉専門分科会会議概要

- 1 日 時 平成27年12月12日(土) 10時00分～12時00分
- 2 場 所 青森市役所第1庁舎3階 福利厚生室
- 3 出席委員 佐藤秀樹委員、大村育子委員、坂本浩司委員、清水和秀委員、
新井山毅委員、一戸倫子委員、佐藤央子委員、成田昌士委員 《計8名》
- 4 欠席委員 宮崎秀一会長、鳴海明敏委員、稲見公介委員、橋爪直美委員 《計4名》
- 5 事務局 健康福祉部長 赤垣敏子、健康福祉部理事 能代谷潤治、
健康福祉部参事健康づくり推進課長事務取扱 山口朋子、
子どもしあわせ課長 西澤哲司、子育て支援課長 鹿内利行、
浪岡事務所健康福祉課長 加福拓志、
子どもしあわせ課副参事 土岐政弘、子育て支援課副参事 松本和久、
子どもしあわせ課主幹 山崎真治、子育て支援課主幹 鳥谷部稚子、
子育て支援課主幹 松島豊、子育て支援課主幹 駒ヶ嶺祐、
子どもしあわせ課主査 小山内孝育、
子どもしあわせ課主事 工藤拓也 《計14名》
- 6 会議次第
 - 1 開会
 - 2 健康福祉部長あいさつ
 - 3 案件
 - (1) 「(仮称)青森市子ども総合計画」骨子(案)について
 - (2) 「(仮称)青森市子ども総合計画」素案(案)について
 - 4 閉会
- 7 議事概要
 - (1) 「(仮称)青森市子ども総合計画」骨子(案)について〔資料1、2参照〕
事務局より説明があった。

意見・質疑応答

○委員

施策の展開の③「乳幼児期の教育・保育と小学校教育の連携」について、教育振興基本計画では、「小学校教育の円滑な接続の推進」と書いてある。円滑な接続という言い方が違和感があるかも知れないが、今年から始まっている幼保連携型認定

こども園でも、指導要録も含めて大切なポイントとなっているので、小学校教育との連携と、教育振興基本計画に書いている円滑な接続の推進も入れていただければ、市の様々な計画上の整理ができ、教育振興基本計画とのつき合わせもできるのではないか。

○事務局

タイトルは「連携」のまま、中身に教育振興計画と同様の内容をとするという
ことよろしいか。

○委員

それがかまわないと思う。

(2) 「(仮称) 青森市子ども総合計画」素案(案)について〔資料3、4参照〕

事務局より説明があった。

意見・質疑応答

○委員

資料3 主な取組②「乳幼児期の教育・保育と小学校教育の連携」の取組内容に、「小学校、認定こども園、幼稚園、保育所等による交流等」とあるが、「保育所等」に小規模保育事業などがすべて含まれてしまうので、違和感がある。また、資格・免許のところでも、「幼稚園教諭、小学校教諭、保育教諭、保育士等」とあり、ここについても保育士等には、子育て支援員など様々なものが含まれてしまうので、整理が必要になると思う。教育振興計画では、注釈で補うこととしている。

○委員

ワーク・ライフ・バランスの推進の女性に対する支援について、女性が仕事をあきらめないで続けられるという観点から、「女性の継続就業・再就職支援」としていただきたい。

○事務局

青森市では、現在、男女共同参画プランも作っており、ご指摘の部分について盛り込んでいるので、そことも整合性をはかる。

○委員

子ども自身の意見も取り入れるために、子ども会議と児童福祉専門分科会と合同で話し合う場を設けていただきたい。また、青森市子ども総合計画のサブタイトルを子どもたちから発案していただきたいと考えるがいかがか。

○事務局

ご指摘の点については、計画しているところである。1月中に機会を設けさせていただくので、よろしくお願ひしたい。

○委員

第2章 2 乳幼児期の教育・保育の充実の(4)子育ての経済的負担の軽減について、アンケート調査の結果では、理想の子どもの数を持たない理由として、子育てや教育にお金がかかるということだったが、例えば、高校の授業料の軽減についてはどうか。

○事務局

高校の授業料の軽減までは今のところ考えていない。

○委員

収入に余裕があれば、たくさん子どもがいてもいいと思うので、普通所得世帯にももう少し金銭的な支援があればありがたい。

○事務局

保育料という視点では難しいが、別の子育て支援、例えば、中学生まで医療費無料化を実施したところであるが、子育ての経済的負担の軽減については、子育て支援策全体で考えていく必要がある。また、子育てのために青森市で支援していることが伝わりにくいと感じている。

○委員

第2章 3 地域全体で子育てを支える環境づくりについて、「子育て支援のネットワークの構築」、「子育て親子の相談、交流の場の提供」や「情報提供の充実」とあるが、そこに遊びに行ける人はおそらく悩まない。家の中に閉じこもって悩みを抱えている人に働きかけられるようなものになればと思う。

○事務局

健康づくり推進課と連携しながら、気になるお子さんがいる家庭、青森市に転入してきた家庭には全て子どもしあわせ課の保育士が訪問させていただいているが、それがもう少しきめ細かさがなければならぬと思っている。その中で、交流の場に出て来られない人にどのようにアプローチしていくのか。既存の教育・保育施設にもご協力いただき、地域の方で何か気になることがあったら声をかけるなどのアプローチが必要であり、この取組を新たな地域福祉計画の中で実施してまいりたいと考えている。

○委員

今、乳幼児期の教育・保育がややこしくなっているので、幼稚園、保育所を分けて考

えるのではなく、青森市の子どもたちのために、青森市が充実した子育て支援として一本化することが必要だと思う。例えば、同じ地区の施設と一緒に子育て支援をやっていくとできれば、もう少し充実したものができるのではないかと。今は園選びをする時代で、園もたくさんあり、保護者も迷っているのではないかと思う。その辺をもっと整理して保護者の役に立つ支援にならなければ意味がないと思う。

○事務局

青森市では、地域福祉計画を策定しており、その中の1つとして、日常生活圏域に近い地区社会福祉協議会エリア、浪岡地区が1か所、青森地区が37か所となるが、その地区社会福祉協議会の中で、地区カルテというものを作ることとしており、地区社協単位の、高齢者、障がい者、子どもがどのくらいいるのか、そこで力になってくれる保育所や幼稚園、病院といった社会資源を整理して、高齢者、障がい者、子どもの居場所づくりをして、様々な年代の人が気軽に集まり、そこにサポートする人がいるというものを目指している。現在は、青森市保育連合会に協力いただき、子育てひろばを青森市をAからFの6地区に分けて保育所単位ではなく地域でということをやっていたが、それをもう少し細かいエリアで、そのエリアにある保育所や幼稚園などに協力していただいてやっていこうということを考えている。

○委員

第5章 子どもの安全安心の確保の3 有害情報や非行から守る取組の充実の有害情報の部分について、インターネットのフィルタリングとなっているが、現在はゲーム機からもいろいろな情報が得られるので、ゲーム機についても記載した方がいいのではないかと。また、親が責任を持つことが必要でないかと思う。

○委員

大人そのもののリテラシーが働いていかない限りは難しいとは思いますが、子どもの育ちを考える上では重要なことであるので、その辺も視点としてみていただきたい。

○事務局

本日、いただいたご意見を踏まえて、内容を修正させていただくが、後からでも追加でご意見があればいただきたい。今後、12月17日に総合教育会議があるが、そこでも調整しながら、22日の庁議で素案を決定してパブリックコメントを1月に実施したいと考えている。